

# 跡地敷赤日

—益田赤十字病院新病院建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2015年3月  
益田市教育委員会

## 1. 調査に至る経緯・事業の経過

益田赤十字病院は、昭和 46 年に現在地（島根県益田市乙吉町イ 103-1 ほか）に新築移転された。日赤敷地遺跡は、その建設工事の際に地下から弥生土器などが発見されたことから、弥生～古墳時代の遺跡（Q191：散布地）として登録された遺跡である。

昨今、老朽化等の理由により病院の建て替え計画がもちあがり、平成 22 年 7 月に埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。その際、遺跡地であるため、分布調査の結果踏まえた試掘調査の必要性、さらに試掘調査の結果次第では本発掘調査へ移行する可能性があることを示し、事業者側からは承諾の意向をいただいた。

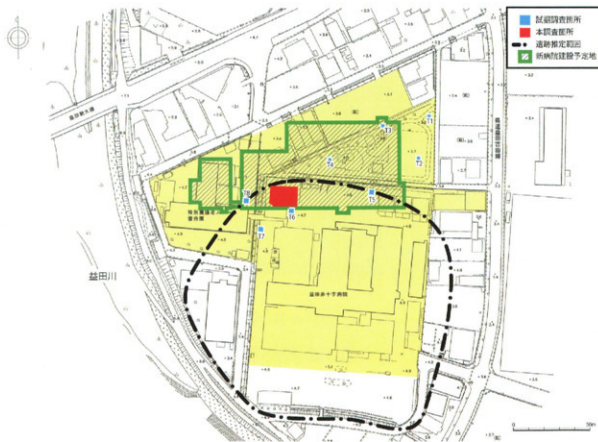
試掘調査は、平成 23 年 6 月から 7 月までの約 1 ヶ月間で実施している。その結果、現在の病院建物直下を中心とする中世遺跡の広がりが見られ、縁辺に向かい徐々に希薄となっていく様相が確認された。

この結果を受けて、事業者と数度の協議を重ね

た結果、工事によって遺跡に影響を及ぼす恐れのある範囲のうち安全勾配を設けての発掘調



第 1 図 調査地位位置図



第 2 図 調査区配置図

査が困難な箇所を除いた北事務棟の一部を対象とした本発掘調査を実施することとなった。

本発掘調査は、事業者との本発掘調査の実施に関する委託契約を締結したうえで、文化財保護法に基づく所定の手続きを行い、平成 26 年 1 月 29 日から 2 月 5 日までの期間で、試掘確認調査で判明した中世遺構面下の遺物確認を中心とした 187 m<sup>2</sup>において実施した。

現地調査終了後は、出土品等の整理作業を開始し、本書の刊行をもって完了した。

調査体制は以下のとおりである。

#### 調査組織

益田市教育委員会

教育長	村川 修
教育部長	林 秀輔
文化財課長	木原 光
文化財課課長補佐	石田 公
文化財課主査	山本浩之
主任	長澤和幸(調査担当)

## 2. 試掘確認調査の概略(第2図)

益田赤十字病院敷地・雪舟西児童公園(病院北側)・特別養護老人ホーム雪舟園(病院西側)の3地区を対象として、それぞれ3地点・4地点・1地点の試掘坑(2m×2mあるいは3m×3m、T1～T8と呼称)を設定して調査を行った。

現地調査は平成 23 年 6 月 20 日に着手し、同年 7 月 15 日に終了した。総調査面積は約 52 m<sup>2</sup>である。

全域において厚く堆積する造成土が確認され、厚さ 1.5～2.2m を測る。この造成土を重機により除去したのち、人力により掘削を行った。

T1～T4 では遺構、遺物ともに確認されなかったが、T5～T8 において、現況地表面から約 3m 下の標高約 1.7m 付近で遺構面と考えられるにぶい黄褐色土層面が確認された。ピットと考えられる遺構が 3 基検出されたが、輪郭は不明瞭であり詳細は不明である。上面からは、平安～鎌倉時代にかけての貿易陶磁器や土師器



T3 掘削状況



T6 土層堆積状況

などが出土した。混在して弥生土器も併かに確認されている。

遺物の出土状況から、遺跡の中心は日赤敷地の中央部から南側にかけて存在するものと思われ、北に向かっては希薄となる様相が推定された。また、当初予想された弥生時代の遺跡については、さらに下層に包蔵されている可能性も考えられたが、調査面積の都合上、確認には至っていない。

## 3. 本発掘調査の概要(第3図)

昭和 45 年の病院建設工事とあわせて周辺では土地区画整理事業も行われており、この時の造成土と考えられる厚さ 2m ほどの盛土が、平成 23 年度の試掘調査において確認されている。また、この造成土の下で、開発前の旧表土と考えられる厚さ約 1m の灰色粘質土の堆積が確認されており、湿地であったものと推察される。

発掘調査にあたっては、この 3m にも及ぶ造成土・旧表土は、事業者から重機の提供を受け、文化財課職員立会のもと、新病院建設工事の一

環で除去することとなった。

発掘調査は、約17m×約11mの調査区を設定し、造成土・旧表土を重機で除去後、人力による掘削を行い、遺物包含層の有無や遺構の検出に努めた。その状況については、随時写真や実測図で記録化した。なお、調査区上場は約17m×約11mで掘削を始めたが、掘削深度が約4mに達し、安全勾配を考慮した結果、最終的な調査区下場は約11m×4mと、限定的なものとなっている。また、既存建物の鉄筋コンクリート基礎が多数打ち込まれているのが確認され、病院建設時に相当の擾乱を受けていることが予想された。

調査地における基本層序は、次のとおりである。

1層：明黄褐色土（造成土、厚さ2.4～2.8m）、

2層：青黒色粘質土

（造成土、厚さ0.2～0.3m）、

3層：暗青灰色粘質土（旧表土、厚さ0.2m）、

4層：暗オリーブ灰色粘質土

（旧表土、厚さ0.5m）、

5層：青灰色粘質土（厚さ0.3～0.5m）、

6層：灰黄色土

（中世遺物包含層、厚さ0.2～0.4m）、

7層：明青灰色粘質土（厚さ0.3～0.5m）、

8層：細砂（厚さ1.4m以上）

試掘調査で確認された遺構面は、色調などから6層上面に相当すると考えられる。しかしながら、今回の調査において、遺構は確認されず、湿地的な堆積状況であることから面を形成している層とは考え難い。また、7層以下も粘質土や砂が厚く堆積する自然堆積層で、遺構面は確認できず、多分に河川の影響を受ける地域であったことが推測される。

1層上面（地表面）の標高が4.7～4.9m、中世遺物包含層である6層上面の標高が1.0～1.5mを測る。試掘調査の結果から約3mと見込んでいた造成土+旧表土の厚さは、約4mを測った。また、6層上面に相当すると考えられる試掘調査で確認された遺構面の標高は約1.7



調査区近景



発掘作業風景①



発掘作業風景②(精査)

m前後であり、今回の調査における包含層上面との比高差は0.2～0.7mを測る。

これらのことから、現行平坦に見える地形も、本来は北西方向に向かって緩やかに下がっていたものと推測される。遺跡の中心は、試掘調査において遺構が確認されている現在の病院建物周辺にあるものと思われ、調査地は、河川などの水辺に向かってせり出す先端部かつ縁辺部に位置するものと考えられる。

包含層に含まれる遺物は、貿易陶磁器（平安末～鎌倉）や土師質土器など中世前半期を中心とした遺物が比較的多いが、瓦質土器や古代以前の須恵器も数点出土している。出土量は総点数 482 点で、コンテナ（40 cm × 60 cm）1 箱に満たないが、その内訳は、白磁碗Ⅳ類 2 点、白磁碗・皿Ⅴ類 4 点、白磁碗・皿詳細不明 12 点、白磁不明品 1 点、青磁碗 B1 類 1 点、中世須恵器 1 点、土師質土器皿・坏 422 点、瓦質土器鍋・甕 3 点、土鍾 3 点、古代の須恵器、土師器 31 点、近世以降の陶器・瓦 2 点である。

#### 4. まとめ

昭和 22 年に撮影された写真が残されており、そこからは、当該地が時期的には不明であるもののかつての高津川と益田川の合流付近に位置していることや益田川の河道が遺跡周辺で大きく蛇行していることが読み取れ、河川縁辺部の後背湿地に立地していることが推定される。

今回の一連の発掘調査により、弥生～古墳時代の遺跡として知られていた日赤敷地遺跡が、中世との複合遺跡であることが確認された。

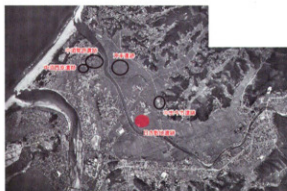
益田市では、近年同じ高津川・益田川河口域において中須東原・西原遺跡という中世後期を盛期とする港湾集落が発見され、平安から鎌倉時代における物資の集散拠点と考えられる沖手遺跡や戦国時代末の港と市町が複合した中世今市遺跡とともに、河口域における物流や地形、土地利用の在り方などの研究が進められている。今回の発掘調査では、遺物が少量で、遺構も確認されていないため、遺跡の性格など考察のための情報に乏しいが、その立地は地形的に交通の要衝に位置しており、弥生時代から中世



土層堆積状況（東壁）



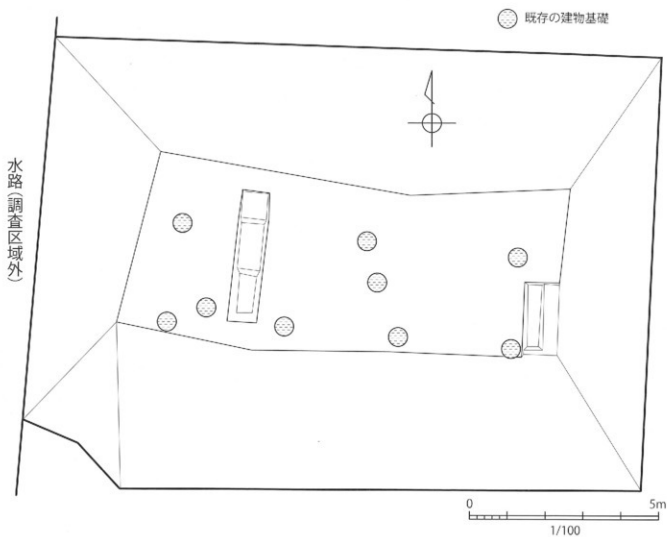
土層堆積状況（南壁）



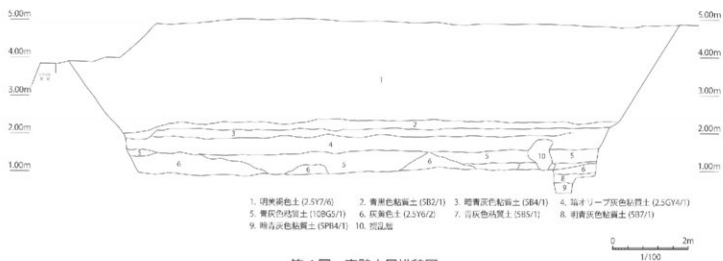
昭和 22 年の益田平野  
(米屋栄軍撮影)

における古環境の復元を考察していくうえで、欠かすことのできない遺跡の一つといえ、今後の調査による資料の蓄積を期待する。

また、弥生時代の遺構・遺物は今回の調査では確認されなかったが、試掘調査において遺物が確認されており、高津川・益田川河口域における数少ない弥生の遺跡であることを否定するものではない。本遺跡と当該期を同じくする沖手遺跡においても縄文晩期の丸木舟や弥生期の水田関連遺構などが発見されており、それらとの関わりは、今後の課題の一つであろう。



第3図 調査区平面図



第4図 南壁土層堆積図





調査前状況



完掘状況から（北西から）



完掘状況から（北東から）



土層堆積状況（南東サブトレ）



土層堆積状況（中央サブトレ）



出土遺物（陶磁器）



出土遺物（須恵器、瓦質土器）



出土遺物（土師質土器、土鍾）

報告書抄録

ふりがな	たっせきしきちせき							
書名	日本書紀							
副書名	益田赤十字病院新病院建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	長澤和幸							
編集機関	益田市教育委員会							
所在地	〒698-8650 益田市益田市常盤町1番1号 Ⅱ-0856-31-0623							
発行年月日	2015年3月26日							
所在遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査理由
		市町村	遺跡番号					
日赤敷地遺跡	山形県 山形市 山形市 山形市 山形市	32204	Q378	34° 41′ 2″	131° 50′ 27″	2014.01.29 ～ 2014.02.05	187	記録保存調査
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
日赤敷地遺跡	集落	中世			土師質土器、須恵器、瓦質土器、 質陶器類			

1. 本書は、益田赤十字病院新病院建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は益田赤十字病院（院長木谷光博）から委託を受け、益田市教育委員会が実施した。
3. 本発掘調査は、益田市教育委員会文化財課の長澤和幸が担当した。
4. 本書の執筆・編集は、益田市教育委員会文化財課の長澤和幸が行った。
5. 調査に関する写真・図面等の調査記録、出土品は益田市教育委員会が保管している。
6. 方位は座標北を示す。
7. 土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版 標準土色帖』に準拠した。

日赤敷地遺跡  
—益田赤十字病院新病院建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 平成 27 年 3 月  
印刷 平成 27 年 3 月

編集・発行 益田市教育委員会  
印刷 株式会社 タイビック